

宍道湖・中海双胴型調査船

「はるかぜ」

島根県は島根県水産試験場三刀屋内水面分場が中海・宍道湖において調査、研究を行うことを目的とした調査船「はるかぜ」を平成4年3月竣工した。本調査船は強化プラスチック製の双胴船とした。我が国において調査船として双胴船を使用しているところは今のところ無い。しかし、調査船にとっての必要十分条件である。

「十分な復元性能及び耐候性を有する」

「十分な作業性と広い作業場を有すること」

を満たすには双胴船が最適であるという認識で全国にさがかけて双胴型の小型双胴船を建造した。

はるかぜ主要目

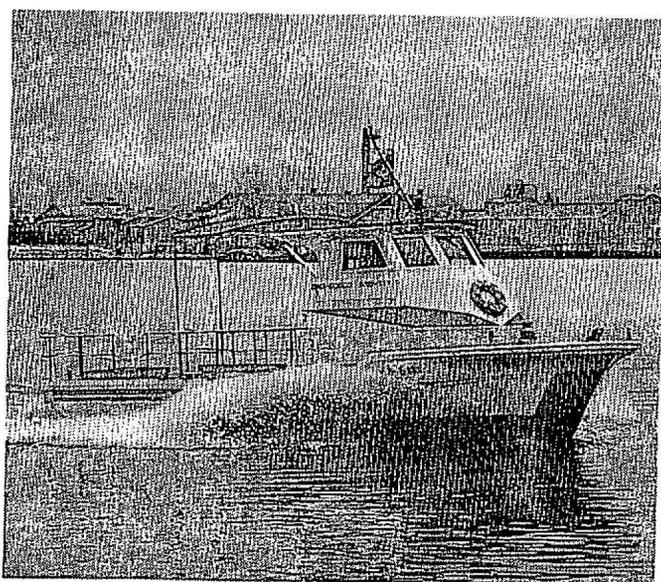
1. 船体部

船 型 一層甲板双胴船
船 質 強化プラスチック

(FRP)

主要寸法

長 寸	9.6 m
幅	3.5 m
深 寸	1.1 m
喫 水	0.5 m
総トン数	4.8 t
速 力	11.0 kt
定 員	8名



2. 機関部

主機関	水冷4サイクルディーゼルエンジン
	4JH-DTZ 82馬力(ヤンマー製) 2基
発電機	CD-2 2KW DC24V 2基
推進器	SZ110 アウトドライブ 2基

3. 観測機器その他

底質探査装置	SH-20 (千本電機製)
水中テレビ	EYE-BALL (日立造船製)
電波航法装置	JLU-121P (日本無線製)
観測用ダビット	150KG吊り

(文責: 中村 幹雄)